

九州における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：船石翔馬、灰来人

（認定 NPO 法人魅惑的倶楽部/コミュニティセンターHACO）

古賀康雅（博多区保健福祉センター）

南留美、高濱宗一郎（九州医療センター）

研究要旨

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 104 キット、2 年度目に 186 キット、最終年度に 193 キットの配布ができ、総計で 483 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 8 件、2.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 6 件、2 年度目が 19 件、最終年度が 28 件（総計で 53 件、16.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~98.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

この 3 年間でゲイコミュニティ向けのアウトリーチや取り組みが再開し、各地域との連携も復活した。本研究で実施したゆうそう検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

A.研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるということがいわれている。保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に

伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

九州地域では、自己採血による検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査キットをコミュニティセンターで対面と WEB で配布した。特にコミュニティセンターの近隣以外に居住する者や山口県も

重要なターゲット層であることから WEB 配布を本年度も導入した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行うことを目的とする。

B.研究方法

コミュニティセンターにおいて、本プロジェクトに関する説明事項を含むウェブサイトを開設した。コミュニティセンターでの対面型配布と WEB 配布を行った。公式ホームページ、公式 Twitter、HACO スタッフ個人 Twitter、コミュニティセンター周辺のゲイ向け商業施設へのチラシ配布（ゲイバー、ハッテン場、ショップ等の約 60 店舗）、スタッフのゲイ向けマッチングアプリアカウントで広報した。

対面配布については、検査キット受け取り希望者はコミュニティセンターに直接来館し、その場でアンケートに答えてもらい、アンケート回答後にコミュニティセンタースタッフが検査に関して説明をして、最後に受け渡す方法をとった。今回は WEB 配布も行うため、特設サイトでの説明の充実を図った。特に九州・山口各県も対象視野に入れ、各県の保健所の検査情報を掲載した。また、陽性判明時に郵送検査会社が発行する病院への紹介状が一部病院では無効となるため、熊本大学医学部附属病院、佐賀大学医学部附属病院に対応を依頼し、受け入れの承諾を得た。

対面配布時のガイダンス資料を作成し、希望者の細かな疑問等に対応した。また、コロナまん延時期でもあるため、検査希望者に配布後にコロナ感染が判明した場合、連絡等の協力をお願いした。

また WEB での申し込みも実施し、特設ページを作り、受検希望者が受付から郵送までスムーズに行えるようにした。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C.研究結果

令和 2 年度は総計 104 キットをコミュニティセンターにおいて対面方式のみを使い配布した。アンケートに回答したものは 106 名であった。実際に検体を郵送会社に郵送したものは 68 名(65.4%)であった。そのうち 97.1%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 1 件、梅毒の陽性件数は 6 件(既往歴も含む)であった。検体を郵送した 68 名のうち、64 名はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体を郵送者の属性については、35 歳未満が 68%を占めた。福岡県の居住者が 87.5%であった。生涯初の検査経験割合は 20%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 64%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 25%を占めた。

令和 3 年度は総計 186 キットを配布した。実際にアンケートに回答したものは 217 名であり、有効回答は 197 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 117 名であった。そのうち 95.8%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 3 件(推定新規陽性率 1.2%)、梅毒の陽性件数は 19 件(既往歴も含む)(推定新規陽性率 3.6%)であった。

検体を郵送した 68 名のうち、83 名はアンケート結果との連結に同意していた。郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 20 名においては、30 歳未満が 50.0%を占めた。九州地域の居住者が 95.0%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 15.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 30.0%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 20.0%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 63 名においては、30 歳未満が 25.4%を占めた。九州地域の居住者が 69.8%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 30.2%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 58.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 52.4%であった。

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせ実施し予定数をすべて配布した。2 年目の試みであったが、入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

最終年度は、総計 193 キットを配布した。対面での配布数は 20 件、WEB 配布数は 173 件であった。事前にアンケートに回答したものは 182 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 142 名であった。そのうち 98.6%が結果にログインしていた。HIV 陽性件数は 4 件（推定新規陽性率 2.1%）、梅毒の陽性件数は 28 件（既往歴

も含む）（推定新規陽性率 11.3%）であった。検体を郵送した 142 名のうち、91 名はアンケート結果との連結に同意していた。

郵送検査利用者の属性については、対面配布かつ ID 連結の同意を得た 9 名においては、30 歳未満が 44.4%を占めた。九州地域の居住者が 100%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 22.2%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 33.3%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 44.4%であった。

WEB 配布かつ ID 連結の同意を得た 82 名においては、30 歳未満が 30.5%を占めた。九州地域の居住者が 81.7%であった。これまでの検査経験がなかったものの割合は 22.0%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 53.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らない人・全く知らない人の割合は 48.8%であった。

配布時の反応では、保健所で定期的に受けていた人の受検が多かった。質問としては PrEP に関するものが多く、HIV 陽性になったらどうなるのかというものは少なかった。

D. 考察

新型コロナウイルスの影響で、保健所での HIV 検査の提供件数が落ち込みは続いた。保健所やクリニックでの受検経験はあるが、郵送検査は生涯初という受検者が 2 割程度であった。WEB 配布では、広範囲からの利用ニーズがあることが示されたが、おおむね対面配布と WEB 配布の利用者の属性に

著変はなく、郵送検査キットの無料配布キャンペーンは多くの MSM に対して新たな検査機会の提供になったのではないかと考えられる。

受検者と直接接することで、検査方法を詳細に伝えることができ、問い合わせに対してもその場で答えることで、受検者に対して安心感を与えることができる点が対面の強みである。一方 WEB 型配布は福岡市以外のニーズがある層にも届くことができる強みがある。

対面配布と WEB 配布の受け取り者に大きな差異はみられず、検査ニーズの高い MSM に届いていたと考えられる。

E.結論

九州地域で、対面型と WEB での検査キットの配布を組み合わせて実施した。入念な広報や情報提供の準備を行い、対面型では不安を軽減する工夫を行い、WEB 配布については特設サイトを開設し、必要な情報提供を心掛け計画通りに実施できた。

新型コロナウイルス感染症対応のため、保健所検査の提供状況が読めない状況が続く中、初年度に 104 キット、2 年度目に 186 キット、最終年度に 193 キットの配布ができ、総計で 483 キット配布した。その結果、HIV 陽性件数は初年度が 1 件、2 年度目が 3 件、最終年度が 4 件（総計で 8 件、2.4%）、梅毒の陽性件数は初年度が 6 件、2 年度目が 19 件、最終年度が 28 件（総計で 53 件、16.5%、いずれも既往歴も含む）であった。検体を郵送した人のうち、95.8%~98.6%は結果画面にログインし、自身の結果を確認していたと考えられる。重複感染でわかった人は 3 年間で 5 名であった。

この 3 年間でゲイコミュニティ向けのアウトリーチや取り組みが再開し、各地域との連携も復活した。本研究で実施したような検査機会は HIV 陽性でわかる人が多く、梅毒との重複感染でわかる人も多かった。CBO が検査機会を創出し、検査行動を促進する取り組みは今後も重要である。

F.研究発表

1.論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339
- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, *コンドーム使用との関連*. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りりい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020.

2.学会発表（国内）

- 1) 塩野徳史.日本のセクシュアルヘルスと予防啓発 -社会が担う役割-.日本エイズ学会 2022年 浜松.
- 2) 塩野徳史. コミュニティにおけるコンドーム使用行動と PrEP 利用. 日本エイズ学会 2022年 浜松.
- 3) 塩野徳史. コミュニティと予防介入の新たな戦略. 日本エイズ学会 2021年 東京.

- 4) 塩野徳史. HIV 予防とヘルスリテラシー. 日本エイズ学会 2020年 千葉.

G.知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし
- 3.その他 なし

表1 郵送検査利用者の概要（令和2年度 -令和4年度）

	年度	R2	R3	R4	計
	地域	福岡	福岡	福岡	
	CBO コミュニティセンター	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	魅惑的倶楽部 福岡支部 HACO	
a 配布数		104	186	193	483
対面配布数			36	20	
WEB配布数			150	173	
b 受検者アンケート回答者数		106	197	182	485
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		68	120	142	330
対面配布数(c対面/a対面)		()	()	10 (50.0%)	
WEB配布数(cWEB/aWEB)		()	()	132 (76.3%)	
利用率計；配布数に占める利用者数(c/a)		65.4%	64.5%	73.6%	68.3%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録（割合 d/c）		66 (97.1%)	115 (95.8%)	140 (98.6%)	321 (97.3%)
抗体検査結果			*重複感染 (2名)	*重複感染 (3名)	*重複感染 (5名)
<input type="checkbox"/> HIV感染症					
e 判定不能者数（割合 e/c）		1 (1.5%)	2 (1.7%)	0 (0.0%)	3 (0.9%)
f 陽性数（割合 f/c）		1 (1.5%)	3 (2.5%)	4 (2.8%)	8 (2.4%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		1.1 (1.6%)	1.4 (1.2%)	3.0 (2.1%)	
<input type="checkbox"/> 梅毒					
g 判定不能者数（割合 g/c）		1 (1.5%)	4 (3.3%)	3 (2.1%)	8 (2.4%)
h 陽性数（割合 h/c）		6 (9.0%)	19 (16.4%)	28 (20.1%)	53 (16.5%)
推定 新規陽性者数（新規陽性率）*		2.1 (3.2%)	4.2 (3.6%)	15.7 (11.3%)	
i 追跡可能者数；無料ID利用者数（割合 i/c）		64 (94.1%)	83 (69.2%)	91 (64.1%)	238 (72.1%)
j 事後アンケート回答者数（割合 j/c）		()	88 (73.3%)	103 (72.5%)	
k 追跡可能な事後アンケート回答者数（割合 k/c）		()	66 (55.0%)	73 (51.4%)	

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、（利用者数-判定不能者数）に掛けて求めた。

** すべての集計より再受検の重複は除いた。*** 空欄は研究デザインの都合上データはない。